

# 会 議 録

## 1 会議名

令和5年度第5回八千浦区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【協議事項】

- ・若者の流出を防ぐ取組について（公開）

## 3 開催日時

令和5年12月20日（水）午後6時30分から午後7時30分

## 4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 仲田紀夫（会長）、大島 進（副会長）、伊倉幹夫、笠原 武、  
笠原幸博、羽深栄一、平野和夫、柳澤 篤、渡辺孝三郎、渡邊修一  
（欠席者2名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、丸山主任

## 8 発言の内容

### 【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【仲田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：笠原幸博委員、羽深委員に依頼

議題【協議事項】若者の流出を防ぐ取組について、事務局から説明をお願いしたい。

### 【丸山主任】

資料の説明に入る前に、前回の会議において、事務局への資料提供依頼について説明をさせていただきたい。

まず、八千浦地区出身の高校生の高校卒業後の進学先、転出状況についていろいろと調べさせていただいたが、県の教育委員会になると思うが、それぞれ統計的な調査を行っているようではあるが、出身中学校、居住地と紐づいた情報までは持っていないということで、改めてやるためには各学校に聞かないとわからないということであった。またそういった情報は、個人を特定できる可能性のある情報でもあるということで、提供自体が難しいこともあり準備はできなかった。もう一つ、各中学校における高校卒業後の進路希望、八千浦中学校でそういったことをしているかということについては、教育委員会に確認させていただいたが、そういった調査はしていないということだった。どの学校、高校に進学したいかということは調査しているが、その後の将来どういったところにいきたいかというところまでは調査していないということだった。またアンケートを地域協議会でいろいろと企画して実施する場合には、中学校に直接お願いするという運びになるそうだが、各地域にはコミュニティスクールという、地域と学校で運営している組織があるので、そういった場を活用してまず議論をしてみてはどうかと助言をいただいた。前回、事務局にいただいた依頼については以上である。

・資料No.1 「若者の流出を防ぐ取組について」に基づき説明

本日の協議ではこれらの情報も参考に、前回の会議の続きということで、意見交換、協議事項の整理を行っていただきたい。

・資料No.2 「八千浦区地域協議会における自主的審議事項」に基づき説明

本日の協議事項も含めて、現在、八千浦区地域協議会で取り上げている自主的審議事項の整理の方向性についても併せてご協議いただきたい。第四期の皆様の任期が来年の4月で終了するというので、この自主的審議事項はすぐに結論が出るものではない、大変重要な課題であると認識しているが、継続審議ということで第五期の新しく委員になられる皆さんに引き続き検討していただく、又は、別の視点で整理したほうが良い等、委員間でご協議いただきたい。

**【仲田会長】**

今ほど人口の推移についての説明や、自主的審議事項の今後の議論のやり方について教唆いただいた。まず人口の推移の見方について感想を含めて意見を出していただきたい。

### 【大島副会長】

お忙しい中、資料を作成していただき感謝する。見させていただいたところ、特に人口推移⑤のグラフを見ると、とても傾向がわかりやすく、高校卒業の年、大学卒業の年、短大卒業の年にある程度関係ある動きが出ているのではないかと思います。

### 【仲田会長】

私が気が付いたのは、人口推移①②の0歳のところを見ていただくと、少子化、少子化、少子化と言われているが、この八千浦地区において、0歳の出生傾向を見ると、必ずしも少子化といえるのかというのが一点。しかし、相対人口は減っている。だから自然減になっているのではないか。特に②の0歳を見てみると、2012年から2022年の10年間はそれほど大きな変動がない。2013年は21人生まれて、2022年が22人。だから、統計上は必ずしも少子化傾向かという、そうでもない。しかし、相対的に減っているのと、それから①では2歳刻みになっているので、例えば2012年に生まれた人が、10年たてば10歳なので、逆に追っていくと2022年で、18歳から20歳、或いは24歳から26歳の人が、2012年では何歳だったかというふうに追いかけていくと、そんなに大きな人口の流動はないが、出生数はそれほど落ちていないのに、若者が数字としては確実に落ちている。だから相対的には八千浦地区の人口減少に繋がっているのかなという気がする。

それと大島副会長が言われたように、⑤の折れ線グラフで非常に特徴があるのが、19歳と20歳と22歳が、前回出たように高校卒業後、大学卒業後、それから結婚、そういったものがあるが、結婚については、嫁に行き出て行く人もいれば入って来る人もいるので、結婚による大きな動きはないと思う。すると、19歳、20歳、22歳でグラフが大きく折れている。だからこの辺が、この地域独特の現象なのかどうかというふうに見ていただいて、皆さん方から気が付いたところを議論していただければと思っている。何か感想があったらぜひお願いしたい。今日の議題は、具体的な取組となっているが、取組まで行かなくても課題抽出、こういった課題が隠れているのではないか、或いはこういうところを我々だけではなく、地域と議論していけば何か見えてくるのではないか、そういった意見でもいいので何か出していただきたい。

### 【羽深委員】

先ほど大島副会長から、意見があったが、高校卒業、短大卒業、大学卒業のタイミングで減っているということを考えると、やはりこの地域で働き口がなくて、働き口がな

いと断定はできないが、働くために八千浦から離れているのではないかと思う。事務局にお伺いしたいが、この傾向は、上越市全体の人口を捉えたときも同じような傾向なのか。

#### 【丸山主任】

今回は八千浦区のものしかグラフを作っておらず、全市的な傾向はこちらでは把握していない。調べればわかるが、少し時間がかかる。

#### 【羽深委員】

急にお聞きして申し訳ない。なぜそれをお聞きしたかというのと、働き口がない、或いは働くために八千浦を離れて働くというのが見えるが、例えば、上越市全体で捉えたときには、違うという場合と同じ傾向であるという場合とを考えたときに、例えば八千浦地区から上越市内の違う地区に転出した場合、それということもあると思う。そうした場合に、ただ単に働き口がなくてということではないのではないか。ただ単に八千浦を離れたくて、例えば他の地区にアパートを借りたり、家を建てたり、或いは結婚して八千浦を離れたいというのものもあるかもしれないし、高校、短大、大学を卒業して、就職口が、自分がやりたいことが、そういう会社がないから、八千浦の人口が減っているのも一つあるのではないかという話が以前から出ていたが、ただ単に上越市内に就職したので、八千浦を離れたということもあるのではないか。そうすると、ただ単に働き口がなくて離れたということには繋がらないのではないか、そういう見方もできるのではないかと思う。

#### 【仲田会長】

今の羽深委員の話で、①を追ってみると面白い。例えば、2012年の0歳は83人で、10年経つと2022年になる。2022年で10年なので、紫色の小学校9から11の欄になる。そうすると、それほど落ち込んでいない。ところが、2012年の15歳から17歳は142人いるが、10年経つと25歳になる。25歳のところを見ると、ドーンと落ち込んでいる。そうすると、生まれてすぐの10年後と、2012年に小学校にいる子供たちが、10年後に減っているのは、大きな落ち方をしている。それが⑤のグラフと合わせてみると、今羽深委員が言われたように、必ずしも働き口がなかったから出て行ったというよりも、ここにあまり住みたくないから、とりあえず一旦出て、他の空気を吸ってまた戻ってくるという、こういうのもありなのかなというの、これは想定であるが。そういったものを皆さん方で、身近な自分の近所も踏まえて、こ

ういった現象もあるのではないかというものがあれば、課題整理として議論を進めていこうということになるのではないか。ぜひ感じたことを出していきたい。

#### 【大島副会長】

娘が平成12年生まれなので、同級生の動きはどうだったかというと、この年代は少なかった。男性よりも女性が多い年だった。私の知っている限り、高校を卒業すると女の子たちは早くに結婚したり、うちの娘も含め知り合いの女の子たちを見ると、結構地元に残っていない。理由はわからないが、うちの娘は仕事の関係でこちらから離れているが、東京に出て仕事をしたり、すぐに結婚したりという話を聞いているので、もしかしたら、男性と女性の割合が学年ごとに違うことによって、またこういう変化が出ているのかもしれないと感じた。

#### 【仲田会長】

自分の生活拠点の身近な動き、或いは自分の子供の動きで類推しても結構なので、多分こういうこともあるのではないかということがあれば、課題整理としていくつか出していきたいと思う。今出されたように出生時の男女比率によっても、何年か後にはだいぶ情勢が変わってくるということも一つの考え方なので、ぜひ出していきたい。

資料の中で、明るい町づくり協議会との意見交換で、人口減少対策として若者が流出しないようにという項目がある。少子化対策として、企業説明会で少子化対策になるのか等も、感想も含めてどうか。このまま人口減少が続いていったら、日本の人口はゼロになるのは確実である。では、なぜ子供が生まれないのかということまで、ある程度我々としては考えた上で、この若者の流出はなぜなのかということも思考回路としてはあると思うので、その辺も含めてどうか。

#### 【大島副会長】

確か前回のこの会議の場で結婚しない人が増えているという話が出たが、結婚しないと子供もできないので当然人口が減る。これはおそらく日本全体の問題だと思う。結婚しなくても、コンビニがそこらじゅうにあるし、スーパーもおいしいお惣菜を作っているし、4、5年前に長野で会議をやったときに、37歳ぐらいの女性が、学力もあってしっかりとした企業に勤めているが、結婚に興味がない。趣味でスノーボードやスキーができるし、そのぐらいの年代までいくと結婚するよりも自分自身の好きなことをやって会社勤めをして、もう十分充実していると言っていた。自分も今の時代にもっと若く生まれていたら、結婚してないかもしれない生活環境になっているのではないかと思う。

**【仲田会長】**

何か気がついたことを出していただきたい。

**【柳澤委員】**

21歳と26歳の孫がいる。孫が3人いるが、一人は県外、一人は八千浦地区にはいる。この人口推移はよくできていると思う。上越市にはいるが八千浦地区にいないということも結構ある。話を聞くと、派遣社員が非常に多くて、派遣社員の方は結婚できるのだろうかと言っている。給料のことでテレビでもよくやっているが、ブレーカーを落として一日中暮らすとか、我々の若い頃と違って電話代等大変な面もいろいろとあるので、その辺からもよく考えたほうがいいのではないかなと思う。孫たちには、実家から通えるのとアパートに入って通うのでは大違いだと言っている。

**【笠原武委員】**

この前も申し上げたが、八千浦地区、或いは上越市の中で、女性が働ける場所、職場が意外と少ないと思う。上越市、或いは近郊も含めると、どちらかというところ工場が多いが、工場が多い割に意外と派遣社員が多い。だから定住する人がいないということで、人口的に減少の方向にいつているのではないかなと思う。

**【仲田会長】**

今働き場所によって男性、女性の違いという意見が出たし、先ほどここには居ないが市内にはいる。前回出たように八千浦に入ってくるには、八千浦の魅力は何かあるのかという議論も出ているので、その辺も含めて意見があったら出してほしい。

**【笠原武委員】**

以前から八千浦地区は保倉川放水路の関係で、以前からその地域はいずれも放水路が通るといって、地域全体の住居地域が、定まっていなかった。若い方が、結婚してもそこに住めるのか、或いは自分の家に住めるのか、その辺もやっとここにきて放水路の関係の法線が出て、少しは明るい方向には見えているが、以前は、法線は多少出ていたが、本当にここに住めるのかという問題もあったと思う。特にこの年代は、今ここに記述してもらっている2012年から22年の十年間の中では、子供なりに自分で生活していける地域であるのかという不安も残っていたのではないかなと思う。

**【仲田会長】**

今まで議論してきて、若者の流出を防ぐ取組というのを今後議論していこうということになり、いろいろと資料が出されて、具体的な取組も含めて皆さん方からご意見を出

していただいている。テーマとしては非常に重い、しかしヒントがどこかにあるのではないかということで、今人口推移について出していただいている。今出されている意見は課題が多い。働き口の問題、住環境の問題。主に働き口と住環境が原因しているのではないか。出生を見ると、それほど大きな少子化ではない。しかし、全体の地区の人口が減っている。高齢者の人口は大きく動いているかというところではないということになると、18から40、50ぐらいの年代層の動きというのが大きくあるということが見えてくる。こういった課題があるのではないかということで、気が付いたことで結構なので出していただきたい。このテーマを今後継続して議論して、自主審議事項までいくのは、八千浦区の地域の活性化の方向性をどうするのか、具体的な取組をどうするのかというところから出てきているので、活性化の方向、自主的審議事項まではいらないが、この八千浦地区を活性化していくにはどうしたらいいかということで、この課題が出ている。それを踏まえて今後の議論の進め方もあるので、いろいろな意見を出していただきたい。

#### 【大島副会長】

もう一つ要因があるとすれば、八千浦区に近い学校がどんどんなくなっている。直江津工業、久比岐。今まで八千浦の人は、だいたい高田よりこっちのほうの学校で就職していたが、私の息子が平成9年生まれで今26か27だが、新井高校や、ほくほく線で松代や十日町高校に通うようになった。それからもちょくちょく八千浦から遠い地域の学校へ進学している。直江津も中等になっている。高校時代を過ごすのが八千浦ではない、かなり離れた地域で暮らすと、そちらで就職先やもっといいところを見つけたりすると、そちらに人が移動するのではないかと思う。

もう一つは、関係ないかもしれないが新幹線との連絡である。はくたかがなくなり、新幹線という上越妙高駅だが、少し離れている。あまり関係ないのかもしれないが、若い人たちが何を考えているのかはわからないし、例えば、高校へ行くときに直江津や高田でも自転車通っている人も多かったが、今の学生はほとんど電車なので、十日町市へ行っても遠いと感じないし、新井に行っても遠いと感じない。そこで、さっきも言ったように、魅力を見つければその近辺の企業に就職したり、移り住んだりするのではないかと感じた。

#### 【羽深委員】

八千浦から若者が減っているということで、八千浦同士で結婚してもらい、八千浦に

残ってもらるのが一番いいと思うが、その出会いの機会はどうなのか。今まではいろいろな行事等が盛んだったと思う。他にも同じかもしれないが、地域の行事が減ってきていることによって、そこで出会う機会がない。一つの例として、私は黒井なのだが、黒井には昔青年会があった。今はなくなっている。青年会で若者が集まり、青年会同士で結婚をして黒井に残っているという人もいる。若者が少なくなったからそういうものが減ってしまったのか、そういうものが減ったから出会いがないのか、それはわからないが、そういったことも一つあるのではないか。それは結婚したくない、結婚しなくてもいいという人もいれば、機会が、チャンスがあれば、そういう人が現れれば結婚したいが、今まで現れなかったという人もたくさんいると思う。出会う機会を設けても、うまくマッチングするかどうかはわからないが、我々の時代は見合いや友達の紹介だったが、今若者が結婚するのはマッチングアプリで、もうマッチングアプリも古いらしいが、そういった形での出会い、直接会うことがなく結婚を決めてしまう人がどんどん増えているようである。そうすると、もうそういった動きを止められないのではないかという気がする。それも一つ問題ではあると思うが、そういったことも少し考えていったほうがいいのではないかと思う。

#### 【仲田会長】

全国の統計でいくと、女性の子供を持ちたいというのが2から3人とされている。ところが実際には合計特殊出生率が1.4を切っているので、そうすると国レベルで、この差は何だという議論がいつも出ては消え、出ては消えている。この間ある学者の本を読んだら、原因は子育てにお金がかかる、これだけである。それに対して、今政府がやろうとしているのが、児童手当や扶養手当について言っているが、これではその子供がその年齢にならないとお金がもらえない。そうではなくて子供が成長していくのに金がかかるのだから、その金をどうやって生活ができるように対応するかというと、一番簡単なのは医療と教育をゼロにすればいい。医療と教育を無償化する。その財源は誰が出すかということ、大人が出す、或いは企業が出す。フランスあたりがそれで大成功して出生率が上がっているという統計がある。今羽深委員が言われたように、出会いも電子化されている、今ネットで何でも用が足りる。そういったものがあるし、AIが出てきて自分がしゃべらなくてもAIが全部しゃべってくれるような時代になるので、そういうことも含めて若者の流出を防ぐ、取組よりも課題としてなぜ出ていくのか、留まらないのかということ、わずかな時間しかないが今後の議論の進め方も含めて何か出して

もらいたい。

**【笠原武委員】**

私が一番感じていることは、私が若いときは地域の交流が非常によかった。青年会、或いは必ず町内単位で動いて、他の地域と交流をする。一番端的な例として、八千浦地区は運動会もあった。卓球大会もあった。野球大会もあった。それが今は、この地域には明るい町づくり協議会があるが、年代の差の交流というのが全然ない。やはり定住を求めるには、ある程度年齢的な差をなくした形の、何か交流の場を持ってないかというのが私の考えである。

**【仲田会長】**

先ほど事務局から話があったように、この課題については、我々の任期があと残すところわずかなので、我々の任期中にある程度の方向性を出しておくのか、それとも継続として次に引き継いでいくのかということも含めて、次回そういう話になるのではないかと思う。ただ自主的審議事項についても、保倉川の放水路の法線が発表されたので、自主的審議事項としては、具体的な議論をしていく話の種がいっぱい出てきそうな気がする。地域の活性化と自主的審議事項、或いは並行して進めていくのか、その辺を含めて皆さんいかがか。事務局どうか。今後実質的には3か月ぐらいの任期しかないが、次回あたりそういった議論の方向性について話をする機会があるのかどうか。今日出たいくつかの課題、私と副会長と事務局で少し整理しても結構だが、その辺の考え方はどうか。

**【丸山主任】**

若者の流出を防ぐ取組について、掘ればいろいろな意見が出てくるとは思うが、テーマが大きすぎて難しいだろうとも思っている。地域の課題解決の根底にあるものということ为前提に、心に留めておきながら、自主的審議事項の協議をしてはどうか。例えば保倉川放水路関連では新しいまちづくりを考える際の要素として、海岸線の安全・安心についても、地域の魅力を高めることが地域に留まる、帰ってくるということにも繋がっており、ひいては若者の流出を防ぐということにもなっていくのではないかと、というところもあるので、人口減少に関するフォーカスした議論は一旦ここまでとし、次回以降は自主的審議事項の整理に入っていってはどうかと考えている。

**【仲田会長】**

地域活性化の方向性のキャッチフレーズと構成要素の中から出る課題なので、非常に

重たい課題。重たい課題だが放っておくわけにはいかないと、どの自主的審議事項を進めていく上でも、多分この課題は出てくると思う。だから並行して進めていくのが一番いいと思うので、ある程度議論しやすいように今日出た意見をいくつか整理していけば、課題の方向性が絞られていくように思う。今日出た意見を事務局で整理してもらい、私と所長と副会長で相談をして、次回自主的審議事項も含めて、議論の方向性を出していただけるとありがたい。それが任期途中であろうが課題としては引き継ぐ事項としては全然差し支えないと思う。

**【丸山主任】**

承知した。一旦、本日いただいた意見をまとめさせていただき、正副会長と事務局で今後の協議の方向性について協議をして、次回の協議会は1月下旬から2月上旬ぐらいに開催し、今後の整理の方向案として皆様にお示す。2月21日には活動報告会と公募説明会を予定しているので、その時にお示しする資料の中にも落とし込み、地域の皆様にも今こういったものを話し合っているというものをお示ししながら、地域協議会に興味関心を持っていただけるようになればいいと思うので、そのような段取りで進めさせていただきたい。

**【仲田会長】**

今事務局から次回以降の議論の方向性について話があったが、そのような方向で進めることでよいか。

(委員賛同)

今日出た意見を事務局でまとめいただき、正副会長と協議をしながら、次回の協議会にある程度の議論の種を皆さん方に出せばいいと思う。

その他、次回の協議会について、事務局より説明をお願いします。

**【丸山主任】**

次回の協議会については、今回いただいた意見の整理ということで、正副会長と打ち合わせ後の1月下旬から2月上旬頃に、会場の空き状況も含めて調整の上、皆様にご案内させていただきたい。2月21日に活動報告会を予定しているので、それより前に開催したいと考えている。

**【仲田会長】**

次回の協議会は、今事務局から説明があったように報告会の前までに開催したいということで、通知が届いたらぜひ日程を空けていただきたい。

他に意見を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

## 9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : [hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp](mailto:hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp)

## 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。